

## 平成 27 年度 西東京市市民協働推進センター事業報告

西東京市市民協働推進センター（以下、センターという）は、開設された平成21年3月より西東京市社会福祉協議会がその運営事業を受託している。（平成26年度末までは毎日10時～21時開館。毎週火曜日（原則）および年末年始は閉館。平成27年度は毎日10時～19時開館で毎週日曜日および年末年始は閉館。）

平成27年度から始まる事業受託第3期では、西東京市第2次基本構想・基本計画における「みんなで作るまちづくり」の推進と実現に向け、「つながる」ことを重点とした事業展開と、裾野の拡大を目指したセンターの運営を行うこととしている。そして、将来像として、市民の多様な活動とまちづくりにとって不可欠な存在になることを目指している。

平成 27 年度は、第 3 期の事業運営に必要となる広報戦略を検討し、ゆめこらぼの位置づけや役割を再確認することでキャッチコピーやロゴを見直し、決定した。また、広報・PR 事業、市民活動の人材、団体の育成・研修事業、地域課題解決のための地域連携促進事業を重点事業として取り組み、ホームページアクセス数の増加、NPO 市民フェスティバルでは従来の 3 倍の集客、まちづくり円卓会議を契機に市内中学校での居場所作りの進展などの成果を上げることができた。

事業	当初計画	実施内容・実施日(参加者数等)	成果と課題
広報・PR 事業 <b>【重点事業】</b>	<p>センターの役割や機能、活動内容を広報・PRしてセンターに対する市民活動団体、市民の認知度向上及び利用者の増加を図る。</p> <p>平成 27 年度は、従来の広報・PR 方法に加えて、次年度以降にメディアミックスとして展開するための<b>広報戦略の検討</b>及び<b>ホームページリニューアルの調査</b>を行う。</p> <p>また、センターの役割や機能を<b>広報・PR するためのツールの開発</b>を行う。上半期では、広報・PR ツールの開発、広報戦略の検討を、下半期では、ホームページリニューアルの調査を、通年では、機関紙の発行（隔月）、<b>利用促進事業</b>を行う。</p>	<p><b>① 広報戦略の検討</b>            検討会を 8 回※開催し、広報の目的の再確認、伝えることのできるメッセージについて検討し、今後の広報のもととなるキャッチコピーや統一ロゴを決定した。（12/15 ロゴ・キャッチコピー制作）            ※①4/21(19 名)、②5/19(19 名)、③6/16(15 名)、④7/21(19 名)、⑤9/15(18 名)、⑥10/20(18 名)、⑦11/17(17 名)、⑧12/15(15 名)</p> <p><b>② 広報・PR ツールの開発</b>            検討会を 6 回※開催し、リーフレットを作成した。（1/23 リーフレット改版）            ※①6/16(15 名)、②7/21(19 名)、③9/15(18 名)、④10/20(18 名)、⑤11/17(17 名)、⑥12/15(15 名)</p> <p><b>③ ホームページリニューアルの調査</b>            来年度のリニューアルに向けて、全国約 340 の中間支援組織の提供情報や最新の技術動向を調査（9 月～12 月）し、リニューアルのためのスケジュールとリニューアル内容の検討を行った。（2/16 ホームページリニューアル計画作成）</p>	<p>広報の目的を再確認し、ゆめこらぼが伝えることができるメッセージについて議論を進めたことで、今後の広報における基本的な方向づけを行うことができた。また、キャッチコピー（まちを想う、仲間とつなぐ）や統一ロゴを決定し、広報・PR ツールの基本となるリーフレットを作成した。</p> <p>ホームページのリニューアルに関しては、事前調査などを行い、来年度の実施に向けて準備を進めた。</p> <p>機関紙「ゆめこらぼ通信」の作成では今年度 8 月号からセンター主催イベントについては、センター登録団体に呼び掛け、協力を申し出た団体から派遣された記者に記事作成を依頼し、センター運営の裾野拡大を図ることができた。</p> <p>利用促進品の開発は NPO 市民フェスティバルでの配布に間に合わせることで、一般市民の参加を促す効果を上げることができた。</p> <p>残された課題としては、今回作成した広報戦略にもとづいた展開を行い、一層の認知度向上を図るとともに、来年度にはホームページのリニューアルを着実にを行う必要がある。</p>

		<p>④ 機関紙「ゆめこらぼ通信」の発行 センター主催イベントの告知と報告、センター登録団体の活動紹介などを掲載。(4・6・8・10・12・2月発行、943部/月)</p> <p>⑤ 利用促進事業 検討会を4回開催し、出されたアイデアにもとづいてひまわり事業で採取したひまわりオイルを利用した石鹸を利用促進品として500個作成した。(1/23利用促進品開発)</p>	
<p>情報収集・提供事業</p>	<p>現在活動している市民活動団体の情報及び市民活動に関連する情報を集約・発信して、市民活動に関する市民の理解や認知度の向上、市民参加の促進を図る。 下半期では、団体紹介冊子の発行(1月)を、通年で、市民活動に関する情報収集、ホームページ等ITによる情報提供、スタッフによるセンター外での情報提供(Wi-Fi使用)を行う。</p>	<p>① 団体紹介冊子の発行 1月に団体紹介冊子を改版、発行した。従来の団体紹介に加えて、募集情報等を追加掲載した。(1/23 団体紹介冊子改版(1000部))</p> <p>② 市民活動に関する情報収集 近隣5市と6月に「中間支援の情報収集発信とネットワーキング」12月に「認定NPO法人の状況」をテーマに情報交換した。(6/18、12/9)</p> <p>③ ホームページ等ITによる情報提供 発信したイベント情報数は、653(前年度は521)。アクセス数(ユニーク訪問者数)は、19,201(前年度は13,576)。月間平均アクセス数(ユニーク訪問者数)は、約1,600であった。(随時(ほぼ毎日)情報提供)</p> <p>④ スタッフによるセンター外での情報提供(Wi-Fi使用) センター外でのイベントでの情報提供をWi-Fiを使って行った。(8/2、8/29、10/24、11/7、12/5)</p>	<p>ホームページ開設以降、月間平均アクセス数は平成23年度、平成24年度の約500であったが、イベント掲載などホームページの更新を頻繁に行った結果、平成25年度、平成26年度は約1,000、今年度は約1,600とアクセス数を増加させることができた。 市民活動に関する情報収集のため近隣5市(小平市、八王子市、府中市、三鷹市、日野市)との情報交換会を続けており、最近になって新たに1市(調布市)参加することとなったが、新たな展開など今後の進め方については検討する時期に来ている。</p>

事業	当初計画	実施内容	成果と課題
<p>相談事業</p>	<p>市民活動に関する一般的な相談、団体の設立や運営等の専門的な相談を基本的な事業として行い、市民活動を支えるセンターとしての役割を担う。</p> <p>通年で、通常相談業務、出前相談業務を行う。出前相談業務は今年度新たに開始した事業である。</p>	<p>① 通常相談業務 センター登録団体数 142 団体、メールボックス利用 79 団体、来訪団体 1,489 団体、2,066 人、来訪個人 286 人で相談件数 108 件</p> <p>② 出前相談業務 「第4回にここ地域まつり」「第7回NPO市民フェスティバル」にブースを設け出前相談を行った結果、相談件数は7件だった。(8/2、1/23、1/24)</p>	<p>今年度、閉館日の変更、開館時間の短縮を行ったが、来訪者数や相談件数に影響は生じなかった。勤労者が市民活動に参加する傾向が強まってくれば見直しを検討する必要があると思われる。</p> <p>今回初めて出前相談を行ったが、「第4回にここ地域まつり」ではゆめこらぼの周知に留まり、相談受付には至らなかった。一方、「第7回NPO市民フェスティバル」では7件の相談受付を行った。</p> <p>今後、公民館の利用や出前相談するイベントなどの選択や周知方法、見せ方が課題となった。</p>
<p>人材、団体育成・研修事業</p> <p>【重点事業】</p>	<p>市民参加を促す意識啓発、市民活動に必要な知識の習得、市民活動団体等の立ち上げに向けた支援・育成、協働を推進するための意識啓発を行い、市民活動の人材、団体の育成を図る。</p> <p>人材の獲得、育成という多くの市民活動団体の共通の課題を解決していくために、新規メンバー獲得支援のための定年前後のシニア世代を対象としたイベントの企画、従来の登録団体の発表の場であったゆめサロンに市民参加を促す企画の追加、団体のスタッフのスキルアップ等のための講座・セミナーを実施する。下半期では、お父さんお帰りなさいパーティー(1月)を、年間でゆめサロンの開催(年3~4回)、講座・セミナーの開催(年2~3回)を行う。</p>	<p>① ゆめサロン、講座・セミナー 市民の地域デビューを支援するため、地域デビューシリーズの講座等を6回、協働に関する講座を1回企画、実施した。</p> <p>○地域デビューシリーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回「ようこそ!『ゆめこらぼミディ』の集いへ」(5/30(17名))</li> <li>・第2回「美しい姿勢を保って若返り講座」(7/18(22名))</li> <li>・第3回地域の文化活動サロン「ようこそ!『小さな文化祭』~芸術の秋への予告編」(8/29(13名))</li> <li>・第4回「まちめぐり~地域の活動現場を楽しく見て歩く旅~」(10/10(15名))</li> <li>・第5回「農のあるライフスタイルを考える」講座(10/24、11/7、12/5(41名))</li> <li>・第6回「地域デビュー交流会」2/24(21名)</li> </ul> <p>○協働に関する講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ITを使った行政との新しい協働について学んでみよう!」(3/19(16名))</li> </ul>	<p>地域デビューに関する企画をシリーズ化することで、定期的にお父さんお帰りなさいパーティー(以下、おとぼ)への勧誘をすることが可能となり、延べ129名の参加者を集めることができた。地域デビューをシリーズ化し継続的に開催したことについては、他市から画期的であるとの評価をいただいた。</p> <p>NPO・市民フェスティバル実行委員におとぼ懇談会のメンバーが引き続き加わることになり、実行委員会においても多くの建設的な意見を頂いた。</p> <p>また、女性対象の企画も行い、裾野を広げることができた。おとぼ懇談会のメンバーからゆめこらぼ事業へのボランティア参加者が生まれた。</p> <p>一方、ITを使った協働の講座を開催し、従来の層とは違ってITに興味をもった参加者を集めることができた。また、参加者の中から自発的に継続的な取組みとするための勉強会を行うこととなった。</p>

		<p>② お父さんお帰りにさいパーティー</p> <p>おとば懇談会を3回開催、地域デビュー・シリーズ及びお父さんお帰りにさいパーティーを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回おとば懇談会(4/9(6名))</li> <li>・第2回おとば懇談会(5/14(6名))</li> <li>・第3回おとば懇談会(7/2(5名))</li> <li>・お父さんお帰りにさいパーティー&amp;ようこそ!ゆめこらぼミディ(1/24(9名))</li> </ul>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">【重点事業】</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域連携促進事業</p>	<p>地域課題を解消するために市民活動団体、地縁団体、企業、大学等の学校、市等の公共機関が相互に交流、連携、協働するためのコーディネートをを行い、様々な関係者の「つながり」による地域連携の促進を図る。</p> <p>地域の課題解決に必要な協働の推進のためのコーディネートをを行い、マルチステークホルダーの「つながり」による地域連携の促進に努める。行政職員との協働の実行に向けてのきっかけの場づくりとして協働のまちづくりワークショップを、多様な関係者での協働の場づくりとしてまちづくり円卓会議を、市民や地縁組織との交流、連携を行う場としてNPO・市民フェスティバル、市民・地縁組織との交流事業、地域連携促進事業「ひまわりプロジェクト」に取り組む。</p>	<p>① まちづくり円卓会議(重点事業)</p> <p>昨年度に引き続き「子どもの声に向き合うために～今、私たちにできること～」をテーマに開催し、自主的な集まりとして放課後カフェが市内中学校2ヶ所で行われるようになった。(6/3、7/22、8/3(22名、参加者:18名))</p> <p>② 協働のまちづくりワークショップ</p> <p>講演とワークショップの2部構成で「多者協働」について事例を交えて、参加した市民、団体、行政等様々な立場からアイデア出しを行い、全体でグループごとの発表を共有した。(7/16(団体:21名、行政職員:16名))</p> <p>③ ひまわり事業</p> <p>6月から10月にかけてひまわりの種まきから収穫までの作業を通して食や環境学習を市民とともに行った。8月のひまわり迷路の公開では8,000名を超える参加者があった。(ひまわり迷路公開:8/12～8/28)</p> <p>④ NPO・市民フェスティバル</p> <p>8回の実行委員会を開催、企画を検討、事前説明会を開催した上で1月23日24日に「第7回NPO市民フェスティバル」を開催した。73団体の参加と約1200名が来場した。</p>	<p>地域連携促進事業は、多岐に亘る多くの事業を行っているが、いずれも予定通り実施することができている。特に、重点事業であるまちづくり円卓会議については、ファシリテーターが途中交替になるという予想外の事態になったものの、「子どもの声に向き合うために～いま私たちにできること」というテーマに沿って、中学生の居場所づくりに向けた活動を推進することになったことは大きな成果であると言える。</p> <p>また、今年度から形を変えて協働の啓発の場から実行に向けての場となるよう開催した「協働のまちづくりワークショップ」では、今後重要となる多者協働について実例を踏まえて行政職員との議論を進めることができ、有意義な企画となった。</p> <p>他にも、今年度から始めたひまわり事業では、従来協働コミュニティ課が行っていた業務を順調に引き継いで事業を遂行するとともに、約8,000名という昨年度の1.6倍の市民がひまわり迷路の一般公開に来場する結果が得られた。</p> <p>従来から一般市民の参加が課題であったNPO・市民フェスティバルでは、場所をきらっとからアスタセンターコートに変更し実施した結果、昨年度までのほぼ3倍の来場者となり目的を達成することができた。</p> <p>課題としては、まちづくり円卓会議を契機に始まった活動について、活動をフォローしていく必要がある。</p> <p>NPO・市民フェスティバルについては今年度一定の成果を上げた一般市民へのアピールを継続し、より一層の市民活動への理解を進める必要がある。</p>

		<p>⑤ <b>地域コミュニティ支援施策への協力事業</b>  地域協議体の発足に向けた準備会等（4月～3月、ほぼ毎月1回）に参加した。</p> <p>⑥ <b>市民・地縁組織との交流事業</b>  避難所運営協議会等の依頼に応じて避難所運営ゲームを13回実施した。（4/25(23名)、7/4(32名)、9/12(19名)、9/15(21名)、9/27(32名)、10/17(13名)、10/21(30名)、10/22(21名)、10/24(77名)、10/27(41名)、1/7(20名)、2/26(13名)、3/26(50名)）</p> <p>柳沢公民館のまちづくり講座で団体と市民との交流を実施した。（12/20(3団体、15名)）</p>	
施設の提供及びその他事業	施設や機材の提供を行い、市民活動を支えることでセンターの利用者の増加を図る。	○サロンスペースの提供 （登録団体数：142、 来訪者数：2,352人、 サロンスペース：305名） ○機材の提供 （コピー機：81件、印刷機：250件、紙折り機・裁断機：30件、ラミネーター：34件、AV機材：28件） ○登録団体に対し、メールボックス（私書箱）の提供(79函、175件)	平成27年度4月より、作業スペースとサロンコーナーの仕切りを取り除いたことにより広くなり使いやすくなったと利用者から好評を得ている。 また、8月より、ラミネートフィルムの販売（フィルム一枚につきA4:15円、A3:20円）を開始。利用者が少しずつ増えてきている。
運営及び維持管理	市民の声を反映するため運営委員会を設置する。 事業充実にむけ、研修によるスタッフの資質向上を図る。運営における維持管理を行う。	○運営委員会の開催（4/21(19名)、5/19(19名)、6/16(15名)、7/21(19名)、9/15(18名)、10/20(18名)、11/17(17名)、12/15(15名)、1/19(16名)、2/16(16名)、3/15(11名)） ○研修会（NPO/NGOの組織基盤強化のためのワークショップ等）への参加（4/18、5/8、5/20、6/20、7/1、8/19、9/8、9/14、9/16、9/18、10/10、11/7、11/25、11/28、11/30、12/1、12/25(各1名)） ○事業実施に向けたセンター運営及び維持管理（常時）	今後の広報戦略を運営委員会で協議して、運営委員の意見を反映して広報の目的を再確認し、ゆめこらぼとして伝えるべきメッセージについて意見交換して合意を得ることができたことは大いに成果があったと言える。 また、今後の運営委員会の進め方や議題として防災を取り上げて欲しいなどとの意見が出されており、前者は今年度に見通しが立ったが、今後は後者について検討する必要がある。 さらに、西東京ボランティア・市民活動センター（以下、ボラセン）との連携を図るため、運営委員会レベルでの相互交流についてボラセンと話し合いを始めたところであるが、今後具体化を図る必要がある。